

# UIFA JAPON NEWSLETTER

## ■主な内容

- 第5回総会を終えて
- 第12回日本大会 広報活動の報告
- UIFA JAPON第5回総会、講演会の報告
- UIFA第12回日本大会実行委員会部会報告
- 「すまいをめぐる女性 -女性建築家の戦後史を辿りながら-」の発行
- ドキュメント3 UIFA日本大会に向けて（1997年3月20日～1997年7月5日）

## ■第5回総会を終えて

UIFA JAPON会長  
中原楊子

今年も6月の第2土曜日がまいりました。UIFA JAPONももう6年目の第5回総会を迎えられた事を役員一同心から皆様に感謝申し上げますと共に喜びと致しております。

もともと UIFA JAPONは日本で国際会議を開くことを目的の一つとして、発足したとも申せませんので、来年1998年9月の第12回世界大会に向けてそれぞれの分野で頑張っていると言う状況です。とにかく世界に向かって「日本で開催します」と宣言してしまったのですからはや投げ出すことは許されません。資金調達のこととか、さまざまな機関のご支援をお願いする件など問題は山積みしておりますし、また一つ一つがスムーズに進んでいるとも言い切れないのですが、それでも何としてでも世界大会は力の及ぶ限りを尽くして成功させなければならぬと思っております。それには会員皆様おひとりおひとりのお力添えを戴くしか仕事を進めていく方法はございません。そして多少の問題が起ころうとも、大会に向けて皆様にご協力頂き皆様の力を結集してなんとか成功させなければと思っております。

総会ではお忙しいにも関わらず、多数の皆様のご参加を頂きありがとうございました。有力会員の高橋公子さまのお通夜と重なると言う悲しいこともございましたが、どうぞ皆様今後ともなお一層のお力添えを戴けますようよろしくお願い申し上げます。



UIFA JAPON会長 中原楊子氏



日本大会実行委員長 松川淳子氏

## ■第12回日本大会 広報活動の報告

広報・記録・編集部会

### 1st. サーキュラ

飯島 静江

6月23日、第12回日本大会の参加希望者を募るための1st. サーキュラが仕上がりました。6月25日に広報部会では国内および全世界へ発送いたしました。事務局にはすでに、ラトヴィア、アルゼンチン、コートジボアール、北海道、岩手など、世界の各地から参加希望票が届き始めています。会員が各々呼びかけを行えるよう、1st. サーキュラは多めに用意してありますので、必要な部数を事務局までご連絡ください。また、参加希望票は、参加費を算出する重要な手掛かりの一つですので、会員の皆様も忘れずに参加希望票を7月30日までにお送りください。

### 1st. サーキュラのこれまでの発送先と発送部数

- 国内 886部 UIFA JAPON、地方公共団体、大学（建築学科）、(株)日本建築学会、(株)日本建築家協会・支部、(株)日本建築士会連合会、(株)東京建築士会、女性技術者の会、後援企業、東京女性財団、その他
- 海外 305部 ソランジュ会長、UIFA会員(会長リスト)、UIA加盟国、日本建築学会関連団体、海外雑誌、その他

### 来年の9月に東京で世界大会

'97年6月26日発行の建設通信新聞に4段抜きのタイトルで、UIFAとUIFA JAPON-75ヶ国の女性建築家協会-、テーマは“環境共生時代の人・建築・都市”と題したUIFA第12回日本大会の記事が掲載されました。この記事掲載が日本大会への注目度を増すことにつながればと願うところです。

### 2nd. サーキュラ

1st. サーキュラ発行に続き、7月に入り早くも2nd. サーキュラの年内発行に向け準備に入りました。1つでも多くの国に、1人でも多くの人に日本大会開催を知らせ、参加希望者に的確な情報を伝えるべく、仏・英・日3ヶ国語を駆使して、1998年9月の日本大会開催まで広報部会の活動は止まることなく続きます。

## ■ UIFA JAPON 第5回総会、講演会の報告

峯 成子

総会日時：1997年6月14日 13:30～14:30

会場：砂防会館 シェーンパッハサボウ 3階「立山」

出席者：29名 委任状40名

小川副会長の司会により、中原会長挨拶、議長に中原会長が選出され、以下の議事が進行され、議案は賛成多数で承認された。

- ・役員紹介及び任務分担
- ・第1号議案 1996年度活動報告（山田理事）  
収支報告（東理事）、会計監査報告（安藤理事）
- ・第2号議案 1997年度活動計画案（山田理事）  
予算案（東理事）

引き続き、UIFA12回日本大会実行委員長（松川淳子氏）より、大会準備の進捗状況報告と多くの方々への協力要請があった。

講演会 講師 インターナショナル・メディカル・クロッシング・オフィス 院長 堂園 涼子氏  
参加者 34人（非会員含）

堂園先生は神戸での体験、震災5日目にリュックに医薬品を詰め込み、現地について避難所に診療所を開設。被災者達の緊急必需品を送り続けるために支援団体を設立。そのあと更に避難所の人達の要望で1年間も診療を継続。被災状況や人々の活動のスライドと共に、「最悪の状況の中で、善意の人々、心優しい人々との多くの出会いに感動した」と語られ、そのこと自体に深い感銘を受ける。

先生のオフィスは「International-Medical-Crossing-Office」と名付けられている。様々な科のドクターとのクロス、外国の人々とのクロス、西洋医学と東洋医学のクロス、ドクターとクライアントが心を通わせる交差点。というコンセプト。

スライドで紹介された先生のオフィスは、いずれも明るく、先生の心配りとこだわりが、絵・家具・ドアノブにいたるまでそこかしこに見られる光と暖かさに満ちた空間。キーワードは「誰の為に何の為に」「何時も考えていると良い医療が出来る。建築もそうでしょう？」との言葉に一寸ズキとする。外国の2病院での体験も、日本にはまだ見られないケアや、安堵できる明るい空間の紹介等学ぶものが多かった。人として何が大事なのか深く考えさせられた素晴らしいお話の何分の一もお伝え出来ないまま、先生の標語と結びの言葉を紹介させて頂く。「涼子の3A-Accept, Admit, Admire」「忙しくても健康について自己管理が必要。休むことは義務であり責任でもある。自己判断せずに自己管理を！」（堂園先生の著書「更年期かしら」は該当年齢外の方にもお薦めです）

懇談会 司会 板東みさ子

ハンガリー、神戸等の個人報告も交えながら歓談。17:00 終了。



この会に同席し、ご挨拶下さったハワイのビビアンさん、サンディエゴのジェーンさん等と堂園先生（左端）

医と建築の共生

渡辺喜代美

婦人科医院「インターナショナル・メディカル・クロッシング・オフィス」院長の堂園氏は、サポート神戸を起こして活躍した行動派である。「女性であって、婦人科医であって本当によかった」と思いながら医師のネットワークを広げ、患者の立場に立った地球規模の総合医療が目標であるという。さわやかな、意志を込めた講話は分野をこえた議論が必要なことを呼び掛けたと思う。医師から見た建築家への問題提起をすなおに受けとめ「女性であって建築家であって本当に良かった」といえる活動を進めたいものである。

当日は堂園氏の友人でハワイのクィーンズ病院のプレジデントの Ms Vivian Ho氏とアメリカのマネージメントの教授の Ms Jean Renshaw 氏が来日中で、医と建築の交流に興味を示して会場にきてくれた。そして、建築家と医師の交流にエールを送ってくれた。堂園氏のネットワークの一端が見えて楽しいものであった。Ho氏は、病院建築と医療は深く関わっていると考え実践もしており、堂園氏の医への姿勢に共感し、世界ネットワークの一端を担い合っているようであった。

堂園氏の建築家たちへの提言を受け止めながら、この日は高橋公子先生の通夜の日と重なって喪服の目立つ懇親会会場は健康管理と日本の医療制度に話がおよんで意義深くも深刻な雰囲気であった。

総会、講演会の感想

矢川麻紀子

今年に入ってUIFAに入会しました。皆様それぞれの分野で活躍なさっており、年齢を感じさせない若さと行動力に、大変刺激されております。

前回の総会では、UIFAにおける活動の全般が分かりました。ただ私のような学生がまだほとんど入会していないようなので、もう少しUIFAの活動が広がれば良いと思います。

私は現在、横浜国立大学環境工学研究室で修士課程の2年です。幼い頃からバイオリンを習っていて、常に音に囲まれた生活の中で育ってきました。よって音に関しては以前から深く興味があり、現在は音と緑の関係、喧騒感緩和効果等の研究を行っています。日本大会でのテーマが環境共生ということで、研究と関わりのあるテーマで大変楽しみにしております。

今回は講演会の感想ということですが、お話の中で印象的だったのが、誰の為に、何の為に行動するのかということです。研究を行うにあたって、つい狭い観点から物事を見てしまい、研究の目的を忘れがちになることが多いので、これから行き詰まった時など一歩踏み止まって先生のお言葉を思い出そうと思っています。また医療の面だけではなく、医療室の内装などにも気が付くのは女性ならではの事だと感じました。

今後自分自身が女性として建築の道を進むに当たり、女性ならではの能力を生かせるよう頑張ろうと思います。



## ■UIFA第12回日本大会実行委員会報告

### 総務・財務部会

園田眞理子

総務・財務部会では、会議開催に向けての万全の準備と本番での円滑な進行をめざして、メンバー一同、役割を分担しながら、かつ相互に連携しながら、精力的に作業を進めています。

主な担当分野は、会議に向けての予算・スケジュールの作成、また何よりも重要な支援体制の確立と中でも特に難しい資金の手当、それと各部会別で進められている作業が無駄なく積みあがるよう、相互の調整や連携を行うことです。しかしながら、どれ一つとっても、初めて体験することが多く、毎回、集まるたびに侃々諤々議論をしながら作業を進めています。

支援体制の確立については、赤松名誉顧問から会場確保を初めとして多大なご支援をいただき、日本建築学会、日本建築士会連合会、日本建築家協会、東京都、東京建築士会から既にご支援等の快諾をいただき、近々、建設省、横浜市からもご支援いただけるよう、手続きを進めています。

また、ちょうどこれから資金集めの具体的な活動を開始する予定です。一部、既にご挨拶に伺ったり、助成金の申請等も開始しました。まさに暑い夏になりそうですが、会員の方をはじめ、ご関係の方に一層のご協力を仰ぐことができればまことに幸いです。

さて、広報部会が作成されたUIFA JAPONらしい涼やかな1st.サーキュラの効果もあって、毎日続々、海外からの参加申込みも届いています。参加メンバーが増えれば、それだけ会議も活発になり一層有意義なものになると思われます。参加者の拡大や会員の増強に向けてのご協力もよろしく願います。

### プログラム・会場・展示部会

山田規矩子

略してプログラム部会と称していますが、正式な名称はプログラム・会場・展示部会です。つまりプログラムの作成、会場の確保と会場で行われる様々な行事の会場面でのサポート及び展覧会の実施という、まったく異なる3つの業務を行う事を目的とする部会です。現在のメンバーは6名ですが、業務の内容から見て、6名では大変難しく、あと3~4名、参加して下さる方が欲しいところです。

プログラムに関する現在の進捗状況は、大会の日程(9月2日から9月6日の5日間が公式行事、9月7日からは自由参加のツアー)及び公式行事期間の大会行程の大枠が決まったところです。

2nd.サーキュラで、世界に向かって発表論文のお願いをしますが、発表の際その内容によって大きくグループ分けが出来るように、今回の大きなテーマをもう少し細分化したテーマ設定の作業を行っているところです。

会場については、1st.サーキュラで皆様にお知らせしたように、メイン会場は、国立オリンピック記念青少年センターをお願いしています。横浜会場は、ランドマークタワー内のランドマークホールが仮押さえ、という状況です。展覧会の会場は、お願いしている有力候補はありますが、まだ正式決定に至っていません。

展覧会の展示の内容は、世界中のUIFA会員から送られてくる作品が主なものになりますが、他に日本的な建築材料の展示等も合わせて検討中です。

### おもてなし部会

正宗 量子

火星に探査車ソジャーナが着陸する時代。宇宙規模でものを考える視座をわたし達に示してくれたような気がする。そんな折りに私達は、21世紀の扉の前に立ち、民族や宗教、イデオロギーの違いはあっても「建築と女性」の絆で結ばれた世界のUIFA会員を日本に招くのだ。「日本にきて本当に良かった！」と喜ばれるおもてなし。「日本のこころ」をどう伝えどうもてなすのがベストなのか、第2回ワークショップ「おもてなしグループ」で提案され、検討した懸案を基盤に実行委員会を重ねている。役割と範囲、会議場見学とそのアクセス、宿泊の選定、エクスカージョン、ポストコングレス案の検討、パーティやイベント、コングレスバッグ、おみやげ、食事やお弁当内容等細部にわたり資料やカタログ等を収集。見、味、魅せるため私たちの五感をフル活用しておもてなしに備え担当を決める段取りだ。エクスカージョン(日帰り小旅行)は二日とり、一日目は横浜三溪園、午後鎌倉を案内。二日目は、富士箱根国立公園を計画している。ポストコングレスは、京都、奈良、神戸を中心に新旧の町並み、住まい、庭園など、日本人がいかにか知恵深く自然と共生しつづけてきたか、宿命のような災害にも負けず築きまた復興するエネルギーのありのままの姿も見ていただきたい。9月から1年間英会話を会員のキャロル・マンクさんをお願いした。イベントは是非とも会員の秘芸にしたい。会員全員がおもてなしの心で参加していただきたいし、ぜひご協力くださるよう皆様をお願いしたい。

## ■「すまいをめぐる女性

—女性建築家の戦後史を辿りながら—の発行 今村 芳恵

韓日交流セミナーに端を発し、研究に取り組んできました「すまいをめぐる女性—女性建築家の戦後史を辿りながら—」の報告書が完成し、間もなく発行の予定です。この研究は、平成8年度 財団法人東京女性財団の研究助成金を受け、昨年12月からは、中原会長、小川副会長の指揮のもと、中善寺紀子、田中厚子、今村芳恵が編集担当として加わり作業を進めてきたものです。報告書の目次構成は以下の通りです。

### ◆本文 ◇はじめに

◇急増する建築系コースの女子卒業生

◇住宅建築と女性建築家の仕事

(1) 第1期 戦後民主主義の機運と「主婦」の登場

(2) 第2期 家庭のプロデューサーとしての主婦

(3) 第3期 高齢期の女性への対応

◇おわりに

### ◆Postwar History of Female Architects in Japan

—How Changes in Housing Reflect the Evolving Roles

of Women in the Family and Society—

(1996年UIFAハンガリー大会で発表したときの英文原稿)

◆年表 「林・山田・中原設計同人」の活動と、UIFA会員の方々から提供頂いた作品などを軸に、女性の視点から戦後の建築と社会の動きを捕らえた貴重な資料です。事務局まで是非お申込み下さい。

■ドキュメント3 -第12回UIFA日本大会に向けて(1997年3月20日~1997年7月5日)-

3月20日(10時~12時)第1回実行委員会 ECOプラザ。21名。

4月7日 国立柳井記念青少年総合センター見学(2回目)

UIFA第12回日本大会への東京女性財団助成、不合格の通知。

4月26日(2時~4時半)第2回実行委員会 オムライツテリ7館。18名。  
総務部会第2回(4/2)寄付、後援の依頼状況と今後の予定。第3回(4/17)プログラム大枠、開催趣意書。プログラム部会第3回(4/22)プログラム(日程・内容)4案作成、発表テーマ。おもてなし部会(4/9)2柴又帝釈天・新木場。(4/11)三溪園・赤レンガ倉庫群他視察。第2回(4/15)東京・横浜のおもてなし。広報部会第1回(3/20)部会体制、担当、1st.サーキュラ案、広報先リスト、第2回(4/6)1st.サーキュラ案、広報先リスト、部会員の増強。第3回(4/19)1st.サーキュラ原案、印刷・発送日程。

5月5日 ㈱リビングデザインセンター-OZONE 事業部橘田氏と会談。

5月8日 1997年度インボイスグループ応募結果、助成見送りの通知。  
横浜市との下打合せ(小渡・吉田理事)

5月10日 日本大会開催準備ワークショップNo.2開催。新宿INAXショールーム会議室。テーマ・おもてなし・宿泊。27名参加。

5月13日 東京都庁に後援願いを提出。

5月22日 No.23 UIFA JAPON newsletter 特別号・大会趣意書を共催、後援、協賛をお願いする関連諸団体に送付(事務局)

5月31日(2時~4時半)第3回実行委員会 オムライツテリ7館。22名。  
おもてなし部会(5/22)新宿などの宿泊用カタログ収集。(5/27)世田谷区の環境共生住宅見学。広報部会第4回(4/26)1st.サーキュラ、広報予算、プレス発表検討。第5回(5/10)会長・事務長参加)1st.サーキュラのデザイン決定、用紙・色、記載文章・翻訳。2nd.サーキュラの日程検討。第6回(5/30)1st.サーキュラ 詳細検討。

6月4日 大会趣意書、建築東京抜刷をプレス関連機関(50社)へ送付。

6月6日 東京都後援名義の使用について、5月22日付承認の通知。

6月17日 横浜市へ協力依頼 女性協会有馬会長、高秀市長他4氏。(中原・他2名)

6月22日 1st.サーキュラ 国内886・海外305 発送作業(広報部会)

6月24日 横浜市中区役所にて、女性計画推進室岡本課長、建築課長脇田氏と横浜公開シンポジウム開催の会談(小川・松川・他4名)

6月26日 オリンピック記念青少年総合センター大枝係長と会談(中原・他6名)。建設通信新聞に第12回日本大会の紹介記事の掲載。

6月28日(2時~5時)第4回実行委員会 オムライツテリ7館。18名。  
総務部会第6回(6/3)当面の活動費の集め方、大会プログラム、後援・資金集め日程。広報部会第7回(5/31)1st.サーキュラ翻訳内容、発送先、日程6/20 1st.サーキュラ印刷物仕上がり(封筒2000・シール5000・1st.サーキュラ1500・参加希望票1500)。第8回(6/22)日本大会広告記事掲載検討。

7月5日(2時~5時)第5回実行委員会 オムライツテリ7館。18名。

川嶋 幸江

■役員会の報告

第1回委員会(97年4月18日)役員9名出席。議題：東京女性財団助成研究について、第12回UIFA日本大会準備について、海外交流の会の総括。

第2回役員会(97年5月13日)役員11名出席。議題：総会準備について、東京女性財団助成研究について、第12回UIFA日本大会準備について。

第3回役員会(97年6月18日)役員9名出席。議題：総会の総括、東京女性財団助成研究について、第12回UIFA日本大会準備について。

■お知らせ

第2回海外交流の会

8月23日(土)午後、今年度第2回海外交流の会。

今回は結婚以前は建築の仕事をしていたという、スリランカ大使夫人をお招きしてスリランカの建築を紹介していただく予定。場所はオカムラの会議室、詳細についてはお知らせを発送する。

第3回ワークショップの開催

日本大会公式行事の見学コースの1つー東京の街を大会のテーマに沿って見るー、見学の拠点やコースの選択に皆様の意見を反映させるためにワークショップを開催します。多数の方の参加を!

9/6(土)10時 東京柳井記念センター集合 10時30分~14時 墨田コース、世田谷コース見学 14時~17時 上記会場にてワークショップと総括。

大会に備え英会話を学ぼう!

大会の公式言語は、日本語、英語、仏語の3ヶ国語。会員のキャロル・マック氏に依頼し、建築用語を交えた会議や対話に必要な英会話を9月から1年間楽しく学ぶことに決定。詳細は後日。

■広報だより

UIFA第12回日本大会まで1年1ヶ月、実行委員長はじめ各部会のメンバーにとってこの夏はさらにホットな季節となりそうです。“日本大会を成功させよう”このスローガンのもと、担当者のみならず、会員こそで日本大会準備に参加しましょう。

担当：飯島、川嶋、渡辺、柏原、田中、大高、緑川